

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p><b>教育目標</b></p> <p>新しい時代を担う英知と、豊かな人間性・創造性・社会性を身につけた人材の育成</p> <p><b>育みたい力</b></p> <p>1. 社会の一員である意識を高く持ち、社会に主体的かつ積極的に参加し貢献する力          2. 柔軟な発想で、新たな課題に意欲的に取り組む力          3. 自らの考えを的確に伝えるとともに、他者や異文化を理解し、相互理解に結び付けるコミュニケーション力          4. 将来に夢と希望を持ち、実現までのキャリアビジョンを自ら設定する力</p>	<p><b>教育方針</b></p> <p>1. 将来を支える学習指導の充実          2. 魅力ある学校生活の創造          3. 将来を支えるきめ細やかな生徒指導          4. 人権感覚豊かな人格の育成          5. 地域に愛される学校</p>
---	--

2 中期的目標

<p><b>1 学力・夢を実現する力の育成</b></p> <p>(1) 組織的な授業改善の推進          (2) キャリア教育の推進          (3) 講習・補習・外部模試の計画的な実施          (4) 就職希望者への支援</p> <p><b>2 保護者・地域から信頼される安全で安心な学校づくり (面倒見のいい学校)</b></p> <p>(1) 生徒の規範意識の醸成          (2) 安心できる人間関係の構築          (3) 行事、生徒会活動、部活動等における          生徒の自己有用感の醸成、学校への帰属意識          (4) 保護者及び地域との連携</p> <p><b>3 とともに学び、ともに育つ教育の実践</b></p> <p>(1) 障がいのある生徒の自立を支援</p> <p><b>4 学校力の向上</b></p> <p>(1) 学校経営計画推進に向けP D C Aサイクル推進          (2) 各組織のリーダーのマネジメント能力の向上          (3) 教職員研修の充実を図り教師力の向上          (4) 学校の広報と情報発信の充実</p>	<p style="text-align: center;"><b>緑風冠高校の3年後</b></p> <p>「主体的、対話的で深い学び」を取り入れた授業 全教員で実施</p> <p>I C Tを活用した授業 全教員で実施</p> <p>学力向上満足度 57% 75%</p> <p>進路や生き方に関する機会の提供の肯定 72% 80%</p> <p>授業アンケート(生徒意識) 3.0 3.1</p> <p>関関同立産近甲龍外国語大学合格者 4人 30人</p> <p>看護系大学・短大の看護学科、看護専門学校合格者 17人 30人</p> <p>就職内定率 100%維持</p> <p>生徒の学校規律の肯定 87% 90%</p> <p>生徒遅刻数 1500件以下</p> <p>保護者の生徒指導満足度 68% 75%</p> <p>友人に関する肯定 81% 85%</p> <p>生徒のクラス活動学校行事の参加に関する肯定 78% 85%</p> <p>保護者学校との相談満足度 71% 75%</p> <p>共生推進教室入学希望者数の確保</p> <p>保護者学校の満足度 82% 90%</p> <p>教職員の教育活動の評価と次年度への計画に関する肯定 50% 60%</p> <p>教職員の組織の連携に関する肯定度 45% 60%</p>
--	---

(平成 30 年度実績 2021 年)  
 は学校教育自己診断  
 は、授業アンケート  
 は平成 29 年度実績による

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成31年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>保護者、生徒とも学校に対する肯定率は概ね上昇している。次年度以降も、「社会で貢献できる人材づくり」の学校運営方針を継続していき、平素から生徒中心の取組みを推進し、授業や行事等での満足度を高めるようにする。</p> <p>生徒指導に関して、生徒は肯定的な意見は微増であるが〔75.7% (+1.1)〕規範意識は高まっているので、今後もきめ細かな指導を行う。</p> <p>保護者からの評価は変化ない。「生徒指導だより」の発行(これまで7回発行)など、学校の取組みの情報発信を継続して実施していく。</p> <p>進路指導に関しては、生徒、保護者とも肯定率が上昇した。〔生徒 80.3% (+8.5) 保護者 72.2% (3.5%)〕。体系的な進路指導が完成するよう取組みを継続するとともに、保護者への情報発信が必要である。</p> <p>生徒「特色ある学校の取組み」(-3.8%)、「入学満足度」(-1.3%)となっている。生徒は一生懸命に取り組んだ活動が「学校以外での活動」が+5.5%となっていることから、学習、部活動、行事など学校全体での生徒の活躍の場面を充実させる必要がある。</p>	<p>〔第1回6月21日〕 専門コースに変更されたこと等の中学校に対して情報提供は大切である。学校経営の柱となる校訓や校歌など、また地域との関係を大切にした教育活動を全教職員で取組むことが必要である。</p> <p>〔第2回11月1日〕 生徒会の取組みや姿勢は素晴らしい。学校教育活動に生徒が参画できていることは魅力であるので、中学校や地域へアピールするとよい。 次年度の学校経営計画案で、大東市教育ビジョンとの連携はよい。安心して落ち着いた学習環境の緑風冠の魅力をさらに向上させて欲しい。</p> <p>〔第3回2月6日〕 生徒、保護者からの学校満足度が全体的に上昇しているため、これまでの学校運営を継続していく。 授業力向上のために、教職員による組織的な活動をする。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力・夢を実現する力の育成	<p>(1) 「主体的、対話的で深い学び」をめざした授業改善</p> <p>(2) キャリア教育の推進</p> <p>(3) 普通科専門コース等の充実</p>	<p>(1) 首席、教務部担当、教科代表による「授業力向上委員会」を置き、授業力向上について検討するとともに年2回生徒授業アンケート等を実施し、授業改善を推進</p> <p>(2) 「ホームルーム」、「総合的な学習の時間」において進路や生き方について考える機会を推進</p> <p>(3) 専門コースのみならず総合系も含め授業内容の充実 進路指導部を中心に講習・補習・模試の計画を立案、実施 英検受験を推奨し英語教育の推進を図る(人文・英語発展専門コースは全員受験)</p>	<p>(1) 「主体的、対話的で深い学び」やICTを活用した授業を実施し、生徒授業アンケート生徒意識における項目(平成30年度3.03%)を3.1以上</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断による進路や生き方の考える機会満足度(平成30年度71.8%)を80%</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断による選択科目の項目(平成30年度83.3%)を85% 学年指定のない講習等で学年を超えるなど学びを生徒に任せる仕組み作りを検討。外部模試の受験者数(平成30年度延べ1609人)を増加。 英検受験者(平成30年度136人)を増加</p>	<p>(1) ICT機器の活用による分かりやすい授業の取組みは進んでいる。生徒の肯定率は向上している( )〔3.15〕 次年度は、授業力向上に教員間で協働的に取り組む必要がある。</p> <p>(2) 生徒の肯定率は目標を達成した。担任と進路指導部での取組みの成果があった。継続し、計画的な教育活動となるよう、引き続き取り組む。( )〔80.3%〕</p> <p>(3) 科目選択に対する生徒の肯定感各教科担当の工夫により目標を達成した。教員間での共有の課題があるので、次年度に取り組む。( )〔85.2%〕 進路指導部を中心に、講習も開講して生徒のニーズに対応できていると評価できるが、生徒の進路実現のためには、さらなる働きかけや工夫も必要である。( ) 外部模試の受験者数 1593人( ) (在籍生徒数が減少したため。全員受験以外の外部模試受験数は45人増加している。) 英語検定の受験者数 119人( )</p>

府立緑風冠高等学校

<p>2 保護者・地域から信頼される安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の規範意識を醸成</p> <p>(2) 支援体制、教育相談体制の充実</p> <p>(3) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上</p> <p>(4) 保護者及び地域との連携</p>	<p>(1) 教員による登校時の校門立番を継続 教員による登下校時の自転車マナー指導を継続 薬物乱用防止教室の継続実施 情報リテラシーの育成のための講演会の実施</p> <p>(2) 要支援生徒について支援教育コーディネーター、担任等が連携し支援体制の充実 教育相談委員会、担任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが連携し教育相談体制の充実</p> <p>(3) 担当の分掌、顧問による働きかけの充実や強化による委員会活動、生徒会活動、部活動の充実</p> <p>(4) 保護者、地域への情報発信の充実 地域の事業参加、中学校との交流</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断生徒指導規則に関する項目における肯定(平成30年度 86.6%)を 88% 遅刻数の削減(平成30年度 1,653件) 自転車マナー苦情件数(平成30年度 11件)を昨年度より減少</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度(平成30年度 66%)を 70%</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断におけるクラス活動学校行事参加の肯定(平成30年度 78%)を 80% 部活動加入率(平成30年度 51.3%)を増加</p> <p>(4) 保護者向け学校教育自己診断学校との相談満足度(平成30年度 70.9%)を 73% 中学生向け学校説明会参加者の維持(平成30年度 585人)</p>	<p>(1) 生徒指導に関する肯定率は目標を達成した。( ) [89.6%] 遅刻総数は、1,632件で減少できなかった。( ) 生徒会による働きかけは効果があったので次年度以降にも引き続き取り組む。 自転車マナーの苦情件数は8件であった。( ) 雨天時レインコート着用の指導を実施している。 着用している生徒は増えているが、次年度は生徒の安全のためさらに推進する。</p> <p>(2) 教育相談に関する肯定率は昨年とほぼ同水準であった。目標値に達成するために次年度は工夫が必要である。( ) [67.2%]</p> <p>(3) クラス活動への肯定率は、82.7%と目標値及び昨年より上昇しており、計画以上と評価できる。( ) 部活動加入率は微増であった。( ) [52.4%]</p> <p>(4) 保護者の満足度は昨年と同水準であった。( ) [71.9%] 中学生向けの学校説明会の参加数は604人と計画を上回った。( ) 今年度は、生徒会や運動部を中心に説明会での活躍の場面を多くしたことから、参加した中学生などからは、とても好評であったと評価できる。さらに12月時点で受験希望者が増加するなど地域から信頼される学校づくりが進んでいる。( )</p>
<p>3 ともに学び、ともに育つ教育の実践</p>	<p>(1) 共生推進教室生徒の自立支援</p>	<p>(1) 個別の教育支援計画に基づいた自立を支援する教育の推進 卒業後の進路実現に向けた職場実習等のキャリアガイダンスの充実 障がい者理解教育の促進</p>	<p>(1) 共生推進教室3年生の進路実現 共生推進教室委員会を月1回程度開催 むらの高等支援学校と生徒交流を実施 選抜出願者を募集定員以上にする</p>	<p>(1) 共生推進教室3年生の進路は実現できた。( ) 各学年での職場体験学習も計画通り実施できており、生徒の自立にむけた取組みは順調である。( ) 共生推進教室委員会は定例で開催できている。( ) 次年度以降は、共有すべき情報を委員会以外にも適宜報告・連絡を行い、すべての教職員が共生推進教室の取組みにさらに関われる体制を推進する。 むらの高等支援学校との生徒交流として、文化祭での展示販売を実施した。教員交流の研修への参加も本校から12名の教員がむらの高等支援学校へ参加するなど、生徒の自立支援への取組みがさらに進むと期待できる。この取組みを継続する。</p>
<p>4 学校力の向上</p>	<p>(1) 各組織のリーダーのマネジメント能力の向上</p> <p>(2) 教師力の向上</p> <p>(3) 情報発信の充実</p>	<p>(1) 各組織のリーダーにおける学校経営計画推進に向けたPDCAサイクルにおける取り組み</p> <p>(2) 教職員研修の充実 ミドルリーダーの育成 個人情報適正な管理を推進 SSW等の外部人材活用、校内連携の更なる促進、定時退庁日、ノークラブデー等で効率的な時間の活用をめざし、時間外勤務の縮減</p> <p>(3) ホームページ等における広報の充実。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断における教職員の教育活動の評価と次年度への計画に関する肯定(平成30年度 50%)を 55%</p> <p>(2) 校内研修(支援教育、人権等)充実や外部の研修を通じて教員力の向上を図る</p> <p>(3) 災害時等における学校の状況を迅速に保護者に周知できるようホームページを改修する。また、ホームページ・ブログを積極的に更新し学校教育自己診断における保護者の学校情報における項目の肯定(平成30年度 46.3%)を 50%</p>	<p>(1) 教職員の肯定率は55.7%で目標は達成した。( ) しかし、教員構成が経験の浅い教員の増加により、業務困難や多忙感が高まると予想。本校の教職員間の連携の課題を改善する取組みを行い、目標設定の数値を高くしたい。</p> <p>(2) 校内研修は計画通りできている。( ) 日程に考慮する必要はあるが、研修の参加率を向上させる。(今年度 55%~85%) また、教員の研修への肯定率が50.8%なので、60%をめざす。 時間外勤務は昨年より減少したが依然多い。( ) 80時間超過 48回 40回</p> <p>(3) 災害時のメールによる安否確認訓練を実施し、周知を図っている。 ホームページでは、ブログを中心に積極的な更新は行っていたが、肯定率は昨年度を下回った。( ) [44.7%]</p>